

令和3年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議
議事録

日 時：令和3年7月8日（木）午前10時～12時10分

場 所：市役所3階大会議室

参加者：別紙のとおり

1 開会

2 委嘱状交付

委員を代表して委員1名に交付

3 市長挨拶

皆さんおはようございます。令和3年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議としてご案内申し上げます。それぞれお忙しい中ご出席いただいたことに前もってお礼申し上げます。先ほど、委員1名を代表として委嘱状を交付させていただきました。任期は1年半ほどですが、ぜひ八幡平市の発展のため、それぞれの立場でご提言をいただければありがたいと思っております。

今回新たに11名の委員の皆さまがお代わりになられたということで、この有識者会議の意義というものを述べさせていただきます。皆さまもご存じのとおり、10年ほど前に国立社会保障・人口問題研究所、岩手県知事を務めた増田寛也氏が所長をしていることですが、衝撃的な発表がなされました。いわゆる人口はどんどん減っていき、これに対応する施策をしなければ地方は崩壊してしまうということが発表されました。それによりますと、2050年には八幡平市の人口は1万4千人台に落ち込みますよという衝撃的な内容でした。国においても大きな課題ととらえ、法改正などなされて、それを受けて全国それぞれの自治体でまち・ひと・しごと創生総合戦略というものを打ち立てて、現在に至っております。

八幡平市においても平成27年にこの創生有識者会議を設置させていただいております。この創生会議では、5年間の第1期の総合戦略として組み立てており、令和2年には第2期の総合戦略を組み立てさせていただいております。市が課題として組み立てた総合戦略の進捗状況を各年ごとに、この有識者会議で評価をいただき、さらなるご提言あるいはご意見等を頂戴し、チェックをしていくというところがこの有識者会議の役割であると思っております。皆さんの役割というのは、設置要綱の第2条に示されておりますので、ぜひそれをご覧になってそれぞれの役割をご確認いただければいいのかなと思います。

人口が減るということは、よく議会でも言われます。人口減るのにどうするんだとよくご意見を賜るわけですが、私はそれに答えているのは、八幡平市はおかげさまで素晴らしい第一産業の生産基盤がある。それに観光においても他市、他自治体に劣ることのない素晴らしい観光施設もある。また、誘致企業をはじめ、地場企業もがんばっておられる。八幡平市はそういうところだと思っております。そういうところをきちっとより発展させていく、継続させていく、そのことが八幡平市にとって一番大事なことじゃないのかなと思っております。副題にあります「ともに暮らし、しあわせを実感できるまち」。そういうまちにしたいんだという副題があります。私はあまり人口にとらわれず、今まで培ってきたものをきちっと守り育てていけば、自ずと人口は維持していけるし、人口の多少によって評価するのではなく、そこに住んでいる人の所得が確保されて、その人が幸せを感じていれば、それでいいんじゃないのとい

うふうには私は議会においても答弁させていただいております。

あまり人口が減る減るではなく、そこに住んでいる人の生活をどう向上させていくか、それがまさに総合戦略だと考えています。

そういった観点から、ぜひ委員の皆さんには年に1回の会議になりますが、それぞれの生業をなさっている方の構成になっておりますので、それぞれの立場のご意見を頂戴し、それを参考に次の第3期の戦略に活かしていければいいのかなと感じておりますので、忌憚のない意見交換を期待するものでございます。

最後になりますが、1年半という短い任期ではありますが、活発な意見交換が有識者会議で交わされることをご期待申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

次第にはございませんが、今年度から新たな委員の初顔合わせとなりますので、委員の皆さんから自己紹介をお願いいたします。本来はマイクをお渡しするところですが、コロナ対策のためマイクなしでお願いいたします。名簿順をお願いいたします。

～自己紹介～

つづきまして、市側の出席者を私から紹介いたします。

～出席者紹介～

次第の進行に戻ります。議事に入りますが、会長・副会長が選任されるまで、市長に進行をお願いします。

4 議事

(1) 会長・副会長の互選について

(市長)

それでは議事に入ります。会長・副会長の互選ということですが、いかなる方法で選出するか皆さんにお諮り申し上げます。ないようですので、事務局案がございまして、それをお示しして、皆さんにご意見賜るということでよろしいでしょうか。

(全委員)

異議なし

(市長)

それでは事務局から会長・副会長についての提案をお願いいたします。

(事務局)

それでは、事務局案を提案させていただきます。会長には、岩手大学の小野寺委員、副会長には岩手県立大学の山本委員を推薦したいと思います。

(市長)

ただいま、事務局から、会長には岩手大学の小野寺純治氏、副会長には岩手県立大学の山本教授をお願いしたい旨の提案がありましたが、提案どおり決定することによってよろしいでしょうか。

(全委員)
異議なし

(市長)
異議なしのご発言がございますので、提案どおり決定させていただきます。それでは小野寺会長、山本副会長もそれぞれ、会長席、副会長席へ移動をお願いします。

(事務局)
ここで、会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(会長)
皆さま改めまして、おはようございます。いま会長に指名されました岩手大学の小野寺と申します。岩手大学の小野寺と言いましても、今は非常勤の客員でございます。最近ではイノベーション・ラボ岩手の小野寺ということで進めさせていただいております。

このまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましても、この戦略がスタートする時点から私も山本委員と一緒に参加させていただいております。ずっと関わってきております。

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、市長のご挨拶にもありましたように、増田寛也レポート、日本創生会議の消滅自治体の話からスタートしまして、その中で国が何をあげたかということ、例えば市は総合計画をお持ちで、それを市民にお示しして、総合的に行政を進めていくというのがこれまでの動きでした。ところが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、行政の力だけでは市の消滅性、持続性を解決するのはなかなか困難だということで、今日お集まりの産・学・官・民・言・労・金という形で、産業界、大学等の有識者、自治体では県や公共職業安定所の方々、民は地域で活躍されている方、言論界からは岩手日報様、金という形で金融機関の方々ということで集まっております。その方々がどういうことをするかということ、八幡平市の場合は2040年に持続性を考えてどれくらいの人口が必要なのかということを決めて、それを進めるための戦略を作っていきます。先ほど市長が言いました通り、5年たって、第2期の計画をやってきて、達成したもの、達成しないものがあります。達成したものはいいですけど、達成しないものはどうして達成しないのか、どうすれば達成するのか、ということをお皆さんで真剣に考えていただいて、それを進めていく。それで5年間のローリングをしながら、当初決めた人口ビジョンを達成して、八幡平市の「ともに暮らし、しあわせを実感できるまち」というものが実現していく。ステップアップしていくというものになります。ですから、この会議で何が必要かということ、皆さま方はいろんな組織の代表でありますので、ぜひ自らの組織をどう動かすのか、自らもどう考えを変えていくのかの観点からもぜひご発言をいただき、一方的に市役所にこうだということではなくて、八幡平市全体を一緒になって変えていく、そういう思いをもってご発言いただきたいと思います。

最近SDGsやCOVID-19という言葉がありますが、この前会議である先生が「レジリエンス」という言葉を出してました。レジリエンスは、もともとは心理学や物理的な用語で、外から力がかかる、それをストレスと言います。ストレスに反発したり逃がしたり、それを変えていく、それがレジリエンスです。よく復元力という言い方をされますけど、そうではなくて、しなやかに取り換えをしていくということで、その先生は内発型、適用型のふたつのレジリエンスがある、と言っていました。内発型とは外

からくるとなにくそと反発する、それが内発型ですが、もうひとつは適用型で、それをうまく逃がしながら新しいものを作っていく、そういうレジリエンスだというふうに思っています。そのレジリエンスという言葉が最初に世界に登場したのが実は日本だということのようです。それは日米和親条約のアメリカの使節団が来ているときに、ちょうど安政の大地震があった。江戸幕府の対応、町民市民の対応を見て、アメリカの方が日本はなんとレジリエントな国だろうとお話されたことがいろんなものに載って、レジリエンスという言葉が定着していった。ですから、もともと日本はレジリエントな国であるということです。市長がおっしゃったように人口だけをいたずらに求めるのではなく、われわれがやらなければならないのは、この八幡平で恵み豊かな資源を使って、どう生き生きした暮らしを作っていくか、そういうことをぜひご議論していただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます、会長就任の挨拶に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。ここからの進行は会長にお願いいたします。

(会長)

それでは、お手元の次第の議事の(2)第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略令和2年度指標評価・分析について。2つございます。①基本目標における数値目標及び施策(プロジェクト)の分析と②人口に関する分析です。それでは①について、事務局からお願いします。

(事務局)

～資料説明～

(会長)

新任の委員の方は数値を言われてなんだろうと思っております。事務局に確認ですが、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略は新任の委員の方へは渡っていますか。

(事務局)

配布済みです。

(会長)

その前に、第1期の人口ビジョンと第1期の総合戦略があり、第1期の人口ビジョンをベースに第2期の総合戦略があり、令和2年度から第2期の総合戦略がスタートして、その第1回目の評価が出てきた数字ということになります。

表の見方ですが、目標値は令和6年度、2024年度の目標値になります。基準値というのは資料1にあったようなほとんどが平成30年度のデータ、ですから2年前のデータが基準値になります。そこから、どのくらい伸びたの、ということになります。それから、AとかB、Cとか言ってましたけど、資料1の上にあります、Aはすでに目標を達成したもの、Bは目標には達成しないが基準値は超えていますというものです。それからCはそれに達していないもの、NA、Not AvailableはデータがないというものがNAということになってる、ということで事務局からご説明いただきました。

私の方からざっと振り返りながら重点的に確認すべきことをお話した上で、委員の

皆さんからご意見いただきたいと思います。

資料2の農業生産額は順調に伸びているかなと思います。その次の人口のところはこの次の人口のところでしっかり議論していきたいと思います。

基本目標3のところも順調に伸びています。特筆すべきなのは、市のホームページ、普通業者のホームページはこんなに伸びないんですが、135万PVという驚異的な数値が目標値に上がっていて、実際に伸びている。基本目標4の観光客については、コロナの関係があつて厳しいということですけど、結構検討していると思います。転入率も結構検討しているかなというところです。

さらにここを踏まえた個別の指標が資料3に入ってきて、最初の農業算出額はりんどうとか野菜販売額、認定農業者の数というのがあがっています。地熱エネルギーを活かしたもの、八幡平市らしい特色のものが色々あります。プロジェクト3では、企業誘致関係では目標値に届いていないけれども、検討したところがあります。4ページにいて大学連携のところ、私も協力しなければいけないんですけど、実績が上がっていないということで、産学連携にもう少し力を入れていく必要があるかなと思います。起業件数、これは八幡平市はスパルタキャンプという非常に有名な起業家道場がありますので、その実績がちゃんと入ってきています。それから、まちの人事部参画企業数、これがある意味第2期の目玉になるわけです。八幡平は大企業が少なく中小企業が多い。人材をいかに確保するかとなったときに、企業の人材確保努力だけでは限界があるので、八幡平市がまちの人事部的な形で動きながら企業にあっせんしていくということで新たに取り組んでいるということで、順調に伸びてきています。

それから、教育機関のところでは、ハロウインターナショナルスクールという日本初の本格的なイギリスのパブリックスクールが、アジアで5番目ですか、そういうものが八幡平市に立地するということを見込んだものになってますし、平館高校との連携企業数があがってます。次も平館高校の、副校長先生もいらっしゃってますので、後でコメントいただければと思いますが、あがっています。

さらには、7ページですけど、なんでこれがあがっているかということ、八幡平市は全国的にも珍しく複数の駅舎がいっぱいあるし、インターチェンジもいっぱいある。そういうところをうまく活用させれば、自家用車じゃなく公共交通機関を便利に使われるだろうということでJR花輪線大更駅ということがあがっています。あとは空き家バンクの関係があがっていたり、木造住宅、それから移住支援・お試し居住が入ってきて、最後のところはサテライトオフィスが入ってきています。

それから、保育所の待機児童数、おそらく年度当初は0だと思うんですけど、子どもが生まれてくるので、どうしても年度末にはこういう数値が出てくると理解しておりますが、もし間違っていたらご指摘ください。それからマタニティサポートとか、屋内の交流空間ですね。10ページの真ん中あたりからは人を増やす、子どもを増やすための出会い系のイベント、縁づくりのイベントが入っていて、最後には婚姻件数ときて、1件あったというように出ています。それから全世代活躍の協働のまちづくりプロジェクトということでいくつか指標があがってきている形になっています。こんな感じで、最後の方は素晴らしい八幡平市の観光を使った教育旅行とか、そういうことがあります。新型コロナの影響で少し苦戦をしているというような状況ということかなと思います。

それでは、皆さまからご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょう。ご質問でも結構です。

平館高校の県内就職率100%ということありましたけど、その辺も含めてご意見とかご要望とかあればお願いします。

(委員)

数字の確認ですが、39 人就職は、令和 2 年度の生徒数は 69 人です。69 人のうちの 39 人が就職したと。57%です。そのうちの 16 人が市内就職してます。盛岡管内が 17 人、残りは北上です。かなりの数が市内に就職しています。実は令和 3 年度の卒業生は 40 人しかいません。クラス数が減るということで中学生がたくさん盛岡に流れて、40 人しか入らなかった。そして現在の 2 年生が 52 人、1 年生が 50 人です。その数は市内中学生の 25%です。75%は市を出た高校に行ってます。この創生会議の目標値は 60 人ですから 35%の目標値のところ 25、6%しか来ていないんです。これを計算していくと、今年を例に例えると、来年度の就職は 23 人、次が 30 人、その次が 29 人と 30 人前後で推移していきます。そのうち、15、6 名しか市内に残らないという計算になります。ですから 60 人という数字は死守しなければならぬということになります。ここ 3 年間、市内中学生は 170 前後います。170 人前後の 35%を確保して 60 人を残すということは 35 名くらいは就職をする。そのうちの 20 名近くは市内に残るだろうという算段になります。その 20 名がここで将来 4 人家族を持てば、10 年間で 1 千人は人口が増えるという算段が成り立ちます。私たちは 60 人を確保して、そのうちの 20～25 名は市内就職させて、そのうちもうプラス 20 名は盛岡管内ですから、八幡平市から通うと思います。市内中学生の 30～40%を確保して、そのうちの 57～60%が就職すると、そのうちの半数は市内に残って、半数は盛岡にいくと。こういう計算をすれば極端な人口の減少は避けられるんじゃないかと思います。2038 年は、今から 18 年後ですが、出生数が 90 人弱ですから、それでいきますと、単純に計算して 35%ですと、30 人ですから、18 年後の平高は残ると。これが 25%で 20 人になると統合対象になってきます。という計算が成り立つので、18 年度にはなんとか 30 人～40 人を確保して 1 クラスから 2 クラス残す。そのうちの 57%の 17 名が地元就職すれば 20 年後も八幡平市に若者がきちっと残るということで、去年から八幡平市の企業さんに本校にきてもらって、オンラインも含めながら、建設業とか普段高校生があまり知らない企業をたくさん紹介してます。やっぱり興味を持つ生徒が出てくるわけですよ。八幡平市の第一の基幹産業が高校生によく知られていない。今度、農業大学校が八幡平市に来て農家の人たちとの交流会を行う。それに初めて高校生を呼んでくれる。高校生にちゃんと農業を教えてくれる、ということもやっていきたいと思っていました。地元の企業を教えて、地元の産業を教えて、生涯を八幡平市で過ごすんだということ。もうひとつは、女性の地域リーダーを平高で育てていかなければならない、と思っていました。10 年後、20 年後に地域を引っ張る女性のリーダーを育てたいと思っていました。これが本校の魅力化と、現実を見た魅力化と思っています。盛岡一高、三高に行く生徒に残ってくれとは言いませんので、八幡平市に貢献でき、八幡平市で生涯を過ごし、家族を持つ人々を平高がやらなければならないと。

うれしかったのが、うちの生徒で平高を八幡平市立高校だと思っている生徒がいました。平高に来ている生徒は八幡平市で生活をしたい、八幡平市を愛しているというふうなことが言えると思います。参考になればと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございました。そこでお伺いしますが、先ほど就職の話がありましたが、進学して、大学とか専門学校に行って、八幡平市に戻ってきてる生徒も一定割合いるのではないかと思うんですが、そこはウォッチングはされているのでしょうか。

(委員)

追跡調査はしておりませんが、長くいる先生もおりますので。(戻ってくる生徒は)

少ないです。盛岡に行ったら盛岡で生活をしていく。今、2年生に世田谷区と仙台から来ている生徒がいます。その人はおじいちゃんがこちらの人で、世代を超えて戻ってきている人はいます。

(会長)

ありがとうございました。平館高校の状況をご説明いただきました。上の方からいきまして、農業分野からいきますが、農業関係者の方もおりますので、何かご意見ございますでしょうか。順調に伸びている感じはありますけど。

(委員)

J A新しいわて青年部としては、毎年松野小学校での田植え体験を、5年生が田植えと収穫をする作業をやっています。これは昔から、私が小学校のときもやっておりますし、ずっと続けている事業であって、今年度から八幡平市でも松尾地区と大更地区が合併して八幡平市の青年部になったが、このまま続けていきますし、我々が今農業者として考えていることは、子ども達が見たときにかっこよく見えるように心がけています。というのも、自分が小学校の頃に親父たちの背中を見て、どう思ったかという、汚い、辛い、大変、金にならない、というイメージで育ってきました。だから本当は私もやりたくないんですけど、といった形で農業を始めたんですけど、やるからには何とかこれで生活していきたいと思って頑張っています。農業に関して言えば、作業する人達が高齢化してリタイヤしていく人が多い中で、八幡平市の農地をどうやって守っていけばいいんだろうという自分なりの考えをもって、今新たな作付け方法に取り組んでいる最中です。この八幡平市役所の周りがほ場事業が入ってるんで、区画が大きくなる、といったのに合わせて、自分の中で能率効率等を考えた作付け方法を模索している最中です。自分のことになりましたが、以上です。

(会長)

ありがとうございました。先ほど委員からもありましたように、若い人たちにビジネスとしての夢を与えていただけるように、ぜひ委員も含めがんばっていただければと思います。

それから、もうひとつの大きなテーマで、子育て関係の指標がありましたけど、そこらへんで関係者の方も結構おりますので、ご発言ありますでしょうか。市への要望でも結構です。

(委員)

今日はPTAの会長としてきておりますが、仕事としては杉の子こども園の園長をさせていただいております。イメージとしては、杉の子こども園の保護者の皆さんは、ご兄弟を持っているお子さんが多く、一人っ子の方が少ない印象です。やはり近くに住んで、お仕事は盛岡から八幡平市を範囲としています。待機児童は、いてよかったなど。年度末に待機児童がいなくなると、怖いことだなど思っているところで、もちろん4月1日の時点では待機児童0で、どこのこども園、保育園でもお子さんを預かるわけですが、子どもが生まれてきて増えて、多少待っているくらいじゃないかと思っているわけです。保育士の確保に関しては、全国的に苦勞してしまっていて、うちでも今年度は実習生の子が3、4人くらい、保育士を目指して受け入れを行っております、前の年に比べてちょっと多いんで、このコロナ禍で受け入れていただけないで、来てるのかなと思うので、積極的に受け入れてぜひ八幡平市で保育士を目指した子が八幡平市に就職できるような形にしたい。お話を聞くと、やっぱり関東圏に出ていき

たいという意思が強い方もいるので、できるだけ近くで保育士をやって、それから行ったらいかなという話をしてやっているところです。ひとつだけ気になるのが、こども園に通われていた保護者の方で、おうちを建てられるときに滝沢の方に建てられるというケースが結構あるので、できれば八幡平市のところで、若い世代の方々がおうちを持って、結婚されたのちアパートに入られてる方も多いので、おうちを持ちたいと思っている方も多いと思うので、その候補地に八幡平市の住宅地が候補に挙がってくれば、市内に残ってくれるんじゃないかなというのがあります。以上です。

(会長)

ありがとうございました。松尾中学校 PTA 会長来てますけど、先ほどの平館高校の先生から話がありましたが、中学校の人達見てて、どのように思っているのかということをお願いできればありがたいです。

(委員)

実は私の長男と次男が平館高校にお世話になっているわけですけど、中学校の先生ともお話ししているんですが、市内唯一の高校ということで、松尾中学校としても多くの人を平館高校に送って、なおかつ市に残ってもらって、がんばってやっていく、そして八幡平市は結構企業とか農業とかやりやすい環境になっているんで、学校の方でも極力平館高校へ行ってもらえるような環境づくりを先生方もがんばっています。私自身、家で酪農をしておりますが、農業をやるうえでも一番条件のいい環境も整っておりますし、私の長男も後を継ぐということで、平館高校卒業後、盛岡農業の畜産専門科に進んで、残ってやっていくということで一生懸命がんばっておりますので、是非ともこれからみんなで協力して残していけるような環境を作っていただければ、八幡平市はもっともっとよくなっていくのかなと、私自身も思っているところです。以上です。

(会長)

ありがとうございました。非常に力強い言葉をいただきました。それから、産業系でまちの人事部の話がありましたし、それから一次産業の話もありましたが、商工業のところをご意見ございましたら、まちの人事部の話を含めて厳しいお話でも結構ですので、ご意見いただければと思います。

(委員)

まちの人事部プロジェクト、起業家支援センターの方々是非常に若い起業家の方が多いということで、ほとんど商工会青年部に入らせていただいている状況にありまして、今までの流れですと、今まであった地域の二代目、三代目の方メインだったんですが、そういった起業家支援センターの新しく起業された方々は、市外から来て八幡平市で起業されたりですとか、他から八幡平市を見てご意見言っただけの方が非常に多いので、商工会青年部としては新しい風、新しい流れができてまして、非常に連携した状態で様々な事業を進めている状況です。先ほど平館高校さんの話にもなるんですけど、商工業が中心の青年部になります。青年部としましても、八幡平市に人に残ってもらう、八幡平市に就職してもらう、そこの活動を大きなメインと考えておりまして、平館高校さんに商工会青年部として行って、青年部の企業の方がパネルディスカッションをしたり、就職支援の企業説明などしているんですけど、課題として、商工会の青年部員という枠にとらわれているわけではないですが、活動の幅につまずきといいますか、そういう部分を感じています。ここに今各団体の方いらっしゃいますの

で、八幡平市役所さんですとか、各銀行さん、我々青年部と農協の青年部と合同で、平館高校さんはじめ盛岡の方も市内から出ていった高校生、大学生に八幡平市内にこういう仕事がある、こういう魅力があるということを今後伝えていくことが必要なのかなと考えておりますので、青年部としては皆さんと連携しながら活動していきたいと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。それから、観光関係をお聞きしたいので、今日観光協会さんいらっしゃいませんが、観光関係も含めてお話しいただければと思います。

(委員)

観光関係については、コロナで何の手も打ちようのない状況です。実際、うちも、問題点は、いつ終わるかなというのを予想したときに、去年の1、2月に始まって、7月には終わるかなと思って終わらず、そこから3月くらいには終わるのかなと準備し終わらず、また7月になってまだ終わってないという感じで、これからワクチンとかもあってだいぶ戻ってくると思うんですけど、それに対してその準備できるほど、観光協会に体力がなくなってしまっているの、その部分でぜひプロジェクトを立ち上げていただければと思います。企業懇談会的には、八幡平市独自の産業とかきれいな空気だからできる産業もありますので、そういったところを小さいころから知る機会があれば、他に大学とか出ても大人になって戻ってくる機会を増やすために、小さいころから教育できるような、そこの中に企業の人たちが参加していく場を作っていけば、もう少しよくなるんじゃないかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。金融機関の方もお三方おりますので、今までのお話について金融機関の立場から何かご発言いただける方いらっしゃいますでしょうか。

(委員)

平館高校のお話にありましたが、高校を卒業して就職というデータはきちんと取れているんだと思います。ですけど、さきほど会長さんがおっしゃったように、その後専門学校、大学と経由するとなかなかデータが取れていないのかなというふうに思っております。そういったなかで、当行のお話をさせていただくと、平館高校を卒業した方が、2年間盛岡の専門学校にいて、昨年当行の平館支店に着任しております。実際にそういう子もいますし、岩手大学から卒業して、もともと盛岡に住んでいたんですけど、当行に配属になって、実際自宅から通っているという女性もいます。どこまで話していいかわかりませんが、当行では昔は大学卒業はどこの勤務先に行くかわからない、例えば、八幡平市の出身の方が八幡平市というのはほぼなかったんですが、今はいったん地元で就職というケースが多くなってきています。割合的には、今までほぼなかったものが、3割から4割はいったん自宅から通わせて、企業風土に慣れさせて、また新たな勤務先に行くというところを模索しているところがあります。いる間に八幡平市の良い方と巡り合えれば、同じ支店なり同じ地域から通える範囲での転勤ということも考えているようですので、そういった意味では、先ほど青年部の部長からも話がありましたけど、青年部にも各金融機関から2名なり3名ずつ人員が入っているんですが、なかなかご協力ができていないところが多いですので、もっともっと声をかけていただいて、私たちももっと行かせてコミュニケーションをとりながら、金融機関としてお手伝いできること、懇談会などお手伝いできることがあるんじゃないかな

いかと思っておりますので、積極的にコミュニケーションをとっていただければなと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。まだまだご意見あるかと思いますが、残された時間があと30分ということで、人口問題を整理してからまた皆さまからご意見いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは2つ目の人口に関する分析をお願いします。

(事務局)

～資料説明～

(会長)

ありがとうございました。社人研よりはまだちょっといいけども、目標には達していない状況です。私の方から問題提起も含めて補足をしたいと思っております。お手元の資料4の1ページ目を見ていただきたいと思っております。事務局から説明がなかったんですが、表2の一番のポイントは女性人口です。2000年に4,107人いて、男性4,175人で68人しか差がなかったのが、令和2年どうなっているのか。男性は2,167人に対して、女性は1,990人で、どういったことかということ、女性の方が一般的に長生きしますから、女性の方が出て行っているということです。総人口に占める割合があります。令和2年で差が出ています。その裏付けが2ページ目にあります。生産年齢人口のことを申し上げなくてはいけないんですけど、生産年齢人口が2010年に16,000人いました。それが2040年には8,629人になります。半分になります。ということは産業構造を変えないと、人手不足はどんどん増えますということになります。

資料2の方をみていただいでいいでしょうか。最大の問題は1ページの基本目標2のところなんです。15歳から39歳の女性にターゲットを絞ったときに、あまり分析されてないんですけど、ここがどんどん目標値を下回って減ってしまっているんですよ。ポイントは15～39歳までの女性、結婚ができて子どもを生んでいただける、結婚しなくても子どもを生んでいただいで構わないんですけど、そういう方々、あまり言うとかワハラとかセクハラになってしまうので、気をつけなきゃいけないんですが、そういう方々にどうやって八幡平市にとどまっただき、また八幡平市外から八幡平市が魅力ある地域として来ていただいでいいのかという施策がなければ、男は残るけれども女はいなくなる。そうすると結婚できない、子どもが生まれえないという悪循環になるというところ、ここを事務局にはもっと分析してほしいんですよ。もっと分析していただいで、なぜ八幡平市の女性は、若い魅力的な男性もいっぱいいるのに、出て行ってしまうのか、というところを男性側の目線も必要になりますけど、ぜひお願いしたいと思います。もうここに尽きる。もう一つは、その結果として、合計特殊出生率という数字が先ほどの資料4にもありますが、1.34という数字は低くないけど決して高くもない。人口がずっと平準化されていくためには2.07必要だと言われていて、1.8くらいまでにしたいねという話を一時期やりましたし、それから考えるとここをどう変えていくのか、そのためには若い男性もそうですけど、一番のポイントは若い女性に八幡平市にとどまっただき、または八幡平市に魅力を感じて来ていただいくということになります。今日残念ながら女性はお二人なので、女性の目線からこういう問題に対してどのように思っているのかを聞きたい。実は岩手県のまち・ひと・しごと人口ビジョンを見ますと、2014年のまち・ひと・しごとの年齢階層別の人口ビジョンと2019年の人口ビジョン、2014年のときには、18歳、大学卒業とか高校卒業

して就職する方が岩手県を出ていくのは仕方ないねと言ってましたけど、2019年には、18歳人口を超えて、22歳から24歳、しかも女性です。女性がそこを超えてもっと出て行ってます。つまり、まち・ひと・しごとをやってきたのに、女性がもっと出て行ってしまっているという現実を、我々は認識しなきゃいけないということだと思っています。語彙を強く申しあげておきたいと思います。そういう面で、県外、埼玉県から岩手においでになって、岩手で八幡平でがんばって活動されている委員にそこへんの秘訣みたいなもの、課題も含めて伺いたいなと思います。

(委員)

ちょっと思いつかないんですけど。

(会長)

八幡平をどうみえていますか。素敵なところ、それとも田舎臭くていやだとか。

(委員)

私は可能性のある土地だと思ってまして。今回の資料の中でもコロナの影響が如実に表れていると思うんですね。経済的な打撃も含めまして、ワクチンが普及したとしても、今後すぐに経済が回復するのも難しいし、以前と全く同じになることはもうないと思っていますんですね。そのなかで、都会というもののメリットもあればデメリットに対して、ある種それに着目されたのがここ最近かなと思っておりまして、実際にコロナが収束したら関東圏から地方に移住したいと考えてる人の割合が、確か内閣府が出してたと思うんですけど、その数値をみると、おっしゃるとおり若い女性、男性、20代とか30代ですよ。その人たちのなかで、以前は数える程しかなかったパーセントが、20パーセントくらい、5人に1人は考えるような数値が出てきたと思うので、今後地方移住を前向きに検討する人は出てくると思うんですけど。私の場合、ここに血縁者の方とかいらっしゃるとか全くなくて、スパルタキャンプに参加してきましたので、スパルタキャンプで出会った人を数人知っている程度で来ちゃいましたので。そうすると首都圏の友達で同年代くらいの人と話したときは、やはり未知の世界というのは正直なところですよ。地方の良さはわかる。旅行に行くのは楽しい。でも実際に住むとなるとやはり住み慣れた土地がいいし、子育てということを考えると自分の親とか親戚がいる住み慣れた土地で育てた上で、子育ての手が離れたら夫婦でどこかに行きたいという願望の方が個人的にも多い気がしますので、若い女性の場合、結婚していなければ、全国的に動きやすいと思うんですよ。男性の場合、家を継ぐとかそういう問題まだまだ地方の方は多いと思うので、女性の方が動きやすいから動けるうちに動いて、年齢を重ねたら戻ってくる方もいればまた自分が根付いた土地に長くいられる方もいると思いますので、どうなんですかね。私としても秘訣はちょっとわからない。ただ私のように縁がなくてもこの土地に来る方もいますので、そういう人の特徴を分析して何か誘致できるものの特徴を挙げられたら、議長がいうポイントのようなものを洗い出せると思います。

(会長)

ありがとうございました。無茶ぶりをして大変申し訳ありません。そういう外からの目線、委員の場合はスパルタキャンプというその1点で八幡平においでになったということで、ここにそういう魅力があるとそこに魅力を感じて来ていただける方がいらっしゃるだろうと思います。こちら辺について岩手県はどのように対応しようとしているのかというところを、何か知る限りでお話いただけるとありがたいと思うん

ですけど、いかがでしょうか。

(委員)

人口ビジョンについては、県も人口ビジョンを作っているさと振興総合戦略を作っているんですけども、女性、特に22歳の女性の社会減が非常に多いと。ただ、それが正直県の方でも必ずしも分析できていないところがあって、というのも高校生、大学生を見ると地元進学率が女性の方が高い。高校、大卒も、県内の大学卒業している学生をみても、女性の方が地元就職率が高いのに、なんでこんなに出てっちゃてるのかな、というあたりがビジョンでももやっと書いてますが、その辺の要因がちゃんと分析できてないので、そのあたりを分析しないと対応策難しいんだろうなということは感じているところです。ただ、女性の方が出て行ってるということ、聞いていると、先ほど出てきた保育士さん、看護師さんも割と1回は出ていきたいという方は多いですね。若い時は1回は都会に出てって何年間か経験して、都会暮らしをして、ただやっぱり子どもを育てるとか考えると地元に戻ってきたいんだけど、という人は結構多い。ただ、そういう人達はいざ1回出てしまうと、再就職なり地元でしたいと思ったときに、どこにアクセスしたらいいのか、どういうふうにしたらいいかわからないというところがあるので、出ていきたいという人に出ていくなというのは難しいので、出ていくのはしょうがないけど、でも将来やっぱり帰ってきた方がいいよというPRとか、もし帰ってきたかったらこういうところにアクセスしてこういうところに行けば仕事を紹介できるよ、生活のところも色々紹介できますというところを若いうちから、いるうちから情報を入れていなければいけないんだろうなと。高校生についても、高校生が県外に進学したいというのはしょうがない。そういう指向はあるので、ただ帰ってきたときにこういうところで情報を取りに行っておくというところについて、かなり早い段階から、あとは岩手県って住みやすいところだよなといったあたりについて、高校生、中学生、小学生の段階から情報を伝えていかないと、高校生は高校に進学した時にはある程度方向性は決めているので、その前段階からその情報発信というか、意識づけは必要だと思っているので、そのあたりの取り組みはやっていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございました。このまち・ひと・しごとの大きなところの最終ゴールはこういうところになると思います。先程の個別資料もありますので、それも含めて今日お集まりの委員の皆さまからいろんな意見をいただければありがたいなと、事務局はこういう視点からも少し調査したらいいんじゃないかとかそんな話がいただければいいなと思っておりますが、どなたかありませんでしょうか。

(委員)

東京で移住セミナーなど毎年やられてますよね。その会議に出て、様々な全国の情報をお聞きになられてると思うんですけど、その中で、私、過去に出たことがあるんですが、最近の新聞を見ますと、コロナも含めて、ネット環境で仕事ができるので、ご夫婦単位で、前は独身だったんですが、既婚者の方々もこの形だと地方に移住してもいいんじゃないかという方が増えているというような情報に接したことがあります。そういう意味において、東京の方でやられてる会議の情報はどうなっているか、もし把握されていればお伺いしたいなと思っております。

(会長)

ありがとうございました。隣に委員がいらっしゃいますので、そのあたりの情報をお持ちであればぜひお願いしたいんですけど。それ以外でも結構です。

(委員)

すみません。そのあたりの情報はあまりないんですけど。ただ、コロナ禍というのは大変な状況ではあるんですけど、ある意味では逆に外ではなく、内側に目を向けるきっかけになってるというか、地元志向になってるという側面もあると思いますし、オンラインでの仕事も増えているといった部分では、地方で働いても東京の本社とやりとりできるというひとつの仕事の形態と申しますか、如実に表れている環境になってきているなどすごく感じます。それとは別の話なんですけど、私は起業家さんを取材する機会がすごく多くて、そういう方々と話していてよく聞くのは、八幡平はすごく面白いことをする場所だということと、この人がここでがんばっているから自分もやってみたいという人に惚れてここで起業したという人がすごく多いなと感じまして、スパルタキャンプとかで出会った人というのは、今のところ男性が多いんですけど、女性の方でもそういうところがすごく多いと思っていて、女性同士で八幡平でがんばっている人の影響を受けて自分も起業したいと思う人も多く思うんですよね。なので、女性対象で今働いている人と学生と懇談してみるとか、そういったイベントとかもあっていいのかなと思っておりました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。勝手に私の方で振ってますけども、若い女性のこういう就職希望とか動向とか情報お持ちでしょうか。

(委員)

手元には盛岡地域の労働市場の情報ございますので、直近5月ですけど、ご紹介したいと思います。八幡平市では、企業から309人の求人をいただいております。それに対して仕事を求める人、男性が181人、女性が153人、合わせて334人ということで、コロナ禍もあって求人倍率は0.93倍と1倍を下回ってる状況でございます。特筆すべきところは、女性の話が出ましたので、仕事を求めている方、前年度との比較しますと、男子については前年度より4.6%、8人ほど増えてる、ほぼ前年度水準ですけど、女性については前年同月が214人いたのに対し、153人ということで3割弱くらい減少している状況でございます。踏み込んで要因分析はしておりませんが、一般的にはコロナ禍の雇止め等によって離職してる方が増加している、もしくは一旦、コロナの先行き不透明な状況の中で求職活動を自粛している方が3月中旬くらいから求職活動を始めてますから、大体増加する傾向にあるわけですけども、他の地域においてはすべて増加傾向にあるんですけど、八幡平市の女性だけが減少しているというデータがございますので、もう一度担当の方にも要因分析をして、役場の方とも連携取りながら何かお手伝いできることがあればと考えております。人事部の事業の関係で、ひとつ確認したかったんですけど、対応していただいた企業が半数くらいということで求人が提出されたのかなと思うんですけど、役場の方で直接正社員就職まで導いたのでしょうか。その辺にハローワークも今後例えば就職相談会を企画するとかそういった関わりができれば、マッチングの面でもお手伝いしていきたいと考えております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。先ほど委員からも首都圏での移住関係の情報ないかということ、今の委員からのマッチングの件について、市の方からお答えできますでしょうか。

(商工観光課長)

まちの人事部の関係でございますが、これは昨年度からやってる事業でございますが、この事業自体は委託で、スパルタキャンプの卒業生が起業してやってるわけでございます。その前にも、最初大阪で人材派遣なりの仕事をしてきた方で、一昨年は盛岡あたりでそのような会社にいた方が独立して、今人材あっせん業をとったという話は聞いておりましたが、そのような形で進めております。もちろん担当の方に相談事があれば相談にのってるわけではございますが、自分で動いて、特にネットを通じての募集が多いようではございますが、そのような形でやってるところでございます。事務所は大更駅前に新しくできた起業家センターに貸事務所として入居したということでございます。以上です。

(会長)

首都圏の移住関係の情報は何かお持ちではないですか。

(副市長)

すみません。去年コロナの関係で、なかなか移住の事業がうまく進まられなかったということで、大変申し訳ないんですが、データは今のところない状態です。

(委員)

県の方で知っている範囲ですが、移住についての相談件数は増えてはいます。岩手県も増えてます。ということでやっぱり関心が高まってきているんだろうなと非常に感じているところなんですけど、ただ、実際移住している人で、首都圏で調査してみると、移住してみたいという人は増えてるということなんですけど、昨年度から今年度までの移住した人を見ると、首都圏からの染み出しというか、隣県に出ている人が多くて、東京から電車で1時間以内のところということで、神奈川の郊外のところとかそのあたりに染み出していて、あまり岩手のところまで来ていないというところがまた次の課題かなというところなので、そのあたりについて、ニーズは高まっているけど、1時間以内という何かあれば、またテレワークとかやってても会社の方は週に1回くらいは出社してください、それ以外はテレワークでいいですよという人だと、やっぱり1時間くらい近いところがいいね、ということでどうしても東北まで来てない。実数が来てないので、そのあたり、私たち盛岡局でも移住のイベントやりますし、県の方でも7月17、18日やりますので、そのあたりで住みよさとかをアピールしていきたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。私からも、移住ていうのは東京の方からすればかなりハードルが高いんですよ。だから関係人口っていうんですか。お試しで来て、それで入ってみる。又は委員のように新しいビジネス勉強しようと思って行くとか、何かすごいきっかけがないと、なかなかすぐ移住と云って、それは委員が言ったように、首都圏の方からは山梨、長野が水際ラインになってて、なかなか岩手の方まで来ないという状況があります。八幡平市の魅力をどう伝えて、まずは知ってもらい、関係人口を作っていくか、その知ってもらうのもただ単に、八幡平いいとこだからおいでと

いってもわかるわけない。それは長野だって同じだよ。白馬のふもとと、八幡平のふもととどこがどう違うんだという話になったりしますし、山形には蔵王のふもとがあったりしますから、そういうことを踏まえて、岩手らしい岩手ならではのところをどう出していくか。私の知ってるコンサルタントが、彼は九州出身なんですけど、今外資系のコンサルタントしながら、何も知らない盛岡がいいねって言って今盛岡に居を構えながら東京の仕事やってる。そういうのが増え始めてるのは事実です。そういう人たちにどうアプローチしていくかというところがポイントで、もう安いから、いいからどうぞっていう時代ではないというところは申し上げておきたいと思います。すみません、座長の不手際で時間になってしまいました。まだまだご意見あるかと思いますが、最後に一つか二ついただきたいのですが、いかがでしょうか。金融機関の方まだお話ししていない方はいかがでしょうか。

(委員)

私も4月から着任しまして、八幡平市のことはまだよくわからない部分もあるんですけども、コロナ禍じゃなければイベントとか結構多かったと思うんですが、できれば私も八幡平市を知るためにいろんなイベントがあれば、足を運ぶ機会になるなと思っております。うちの職員13名いるんですけど、5名が八幡平市の職員で通勤しておりますし、それでも八幡平市も広いので、まだまだ知らないところたくさんあると思いますから、機会があればぜひ参加させてもらえればなと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございました。他はいかがでしょう。それでは最後に副座長からお願いします。

(副会長)

取り組みのところからまだ漏れているところで言うと、観光の入込、特に教育旅行に関して感じられたんですけど、昨年度、沿岸の観光拠点となる共同研究を行ったんですけど、入込すごく増えてるんですよ。このコロナ禍に関わらず。どういう背景があるかっていうと、北海道とか首都圏に修学旅行に行ってた東北の近県の中学校、高校が、コロナだからって行先を変えて、近場でということ、それをしっかりと収容しているという話でした。これは、コロナだからやってもしょうがないんじゃないかというふうに、最初から諦めてしまっていたんじゃないかなと、申し訳ないけど感じてしまいました。なので、これまた明けてから、スタートダッシュを切れるかどうか重要な問題になってくると思いますので、ここは万全を期して観光客の受入体制を整えていただきたいと感じています。

あと人口問題ですね。大変頭の痛い問題だと思いますけど、まず一つ決め手になるだろうというものは、女性の人口を減らさないためには、例えばサザエさん型の同居に対する、これは待ったなしの状況ですから、この統計の数字見て何も感じなかったら、ちょっと市の職員の皆さんどうかなと思ってしまうんですけど、直接でも助成金でも、サザエさん型の同居を推奨するような施策をぜひとっていただきたいと思います。

それから、外から来ていただくためには、女性の皆さんにフルタイムで働いていただく機会を提供しない限りは、口ばかりになってしまいますので、安易かもしれませんが、女性がある程度まとまった数でフルタイムで働いていただけるような仕事っていうと、介護とか福祉とかに行きついてしまうのではないのかなと思います。これだけ人材が不足している世の中ですから、介護の施設と育児も含めて、望まれぬ妊

娠とか DV 等から他の土地で暮らしにくくなってしまった、特にシングルマザーですけど、温かく受け入れる体制をしっかりと市ぐるみで整えて、人口対策、女性人口を増やすためにどれだけ本気になっているのかというところを、世の中に対して訴え出るくらい積極的に舵をきっていただくことが重要なと感じております。

(会長)

ありがとうございました。今日の会議は結論を出すというのではなくて、第2期八幡平市まち・ひと・しごとの1年目の検証をして、次につなげるアイデアを皆さんから出していただくということが主だったということで、すみません、そういう点で座長が無茶ぶりをしたことをお許しいただきたいと思っております。これに懲りずに皆さま方気付いた点があれば、この会議の中で発言しようと思っても1年に1回くらいしかないの、忘れてしまったりするので、ぜひご担当の市の方に投げかけたりしていただけると、整理されて次の会議でまたこういう形で出てくると思います。ぜひこんな形で絶えず頭のどっかにおいていただきながら、八幡平市の創生総合戦略をどのように進めていったらいいのかということ、各々の立場でお考えになっていただけるとありがたいなと思っております。特にも課題になってます女性が活躍する八幡平市、女性が住みやすい八幡平市が、これからのキーワードだと思います。現市長さん、ご勇退されますけども、次の市長さんにはそういうことをつないでいただけないかと思っております。座長の進行の役割を終えたいと思っております。事務局の方へお返しします。

5 その他

(事務局)

会長さんありがとうございました。次第に戻りまして5のその他でございます。事務局の方は特にございませんが、皆さまの方から何かございますでしょうか。資料のある平館高校さんは大丈夫でしょうか。

(委員) ぜひ資料を見ていただいて、ご理解いただきたいと思っております。

(事務局) ありがとうございます。それでは長時間に渡りまして、貴重なご意見ありがとうございました。以上を持ちまして、令和3年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了いたします。本日は大変ご苦勞様でした。